

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和元年度 第2回たかまつ創生総合戦略推進懇談会
開 催 日 時	令和2年1月15日(水) 18時30分～20時20分
開 催 場 所	高松市役所13階 大会議室
議 題	(1) 「たかまつ人口ビジョン 令和元年度改訂版(仮称)」(素案)について (2) 「第2期たかまつ創生総合戦略(仮称)」(素案)について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員等 (12名)	佃会長、野田副会長、岡崎委員、久保委員、桑島委員、對馬委員、中橋委員、西森委員、野崎委員、三井委員、山田委員、井手下オブザーバー
傍 聴 者	0人 (定員10人)
担当課及び 連絡先	政策課 839-2135

会議の経過及び結果

(1) 「たかまつ人口ビジョン 令和元年度改訂版(仮称)」(素案)について

(2) 「第2期たかまつ創生総合戦略(仮称)」(素案)について

事務局から、議題の「たかまつ人口ビジョン 令和元年度改訂版(仮称)」(素案)及び「第2期たかまつ創生総合戦略(仮称)」(素案)の概要について説明をした後、別添4及び別添5の「委員からの骨子案に対する意見に対する市の考え方・対応等」についての説明を行った。

主な意見

(会長)

まずは、「たかまつ人口ビジョン 令和元年度改訂版（仮称）」（素案）から話を進めていこうと思う。

骨子案に対する意見と市の考え方・対応等も出ているので、それらを踏まえてみなさんから御意見を頂きたい。

(委員)

人口ビジョンについて別添1のスライド2ページの(1)の人口推移の分析、別添2でいうと3ページがあたると思いますが、グラフを見ると世帯数が増えている、1世帯当たりの平均人数が平成30年で2.25とのことで、年々減少しており核家族化が進行しているということですが、3世代家族が多かった時代から核家族が増えたというだけでは問題が少しづれてしまうかなと思う。

4人家族も5人家族もいるわけですから、一人暮らしの方も増えているということになり、核家族や単独世帯も増えているという表現になるのではと思う。

平均して2.25だと、かなりの数の方が一人暮らしで、4人家族、5人家族がたくさんいる中で、単独世帯が増えるということがクローズアップされてくると思いますので、その点を表記した方が良い。

(事務局)

核家族の定義ですが、国勢調査における核家族の定義でとられており、夫婦のみの世帯、又は、夫婦と子どもからなる世帯、男親と子どもからなる世帯、女親と子どもからなる世帯ということになっており、単独世帯は含まれていない。

今、指摘がありましたとおり、核家族化の定義についてきちんと明記した方がよいので、注釈として核家族の内容を記載する。

また、核家族化とともに、単独世帯が増加していることも記載する方向で修正する。

(委員)

別添1のスライドの4ページ、5ページに出てきている公共交通機関の利便性についてだが、人口が減っていく中で、今から新たな鉄道を引くことは現実的ではなく、バスでやろうとしても今のご時勢、実はバスの運転士の確保が非常に難しい状況になっており、しかも、路線バスは基本的に赤字というか儲かっていない事業部分である。

観光都市として非常に注目を浴びているので、交流人口のところでプラスになってくるが、その一方で、オーバーツーリズムで、地元に住んでいる人たちの生活がままならないような状況になっていけないうところもある。

このため、公共交通機関の利便性をどのように考えるのか、これを上手くスマートシティなどと連携して、ある程度大胆に自動運転を取り入れ、実証実験をどんどんやっていく等、いろんなアイデアを出していかなければならないという感想がある。

(会長)

続いて「第2期たかまつ創生総合戦略（仮称）」（素案）です。

(委員)

別添1のスライド16のところですが、説明があったとおり、若者から選ばれるまちをつくるということで、1年間の転入・転出の差を指標にあげていたが、それだけでは若者というのをきちんととらえられないので、新たに若者の人口を指標に追加したことは大変よいと思う。

また、合計特殊出生率が数年に一度しか出ないので、毎年

とれる指標ということで出生数を入れることも、すごくいいアイデアだと思う。

出産に適する年齢が20歳から39歳の人口にあたると思うが、合計特殊出生率は、第1期の当初値1.62から1.68に上がるという見込みになっているので、このあたりの数字をどのように考えているのか。

(事務局)

20歳から39歳の人口については、国が示す分析ツールにより、算出されたものであり、現在の20歳から39歳人口が約8万人強であることの整合を見てもこれくらいの人口を維持していくことが大事である。

20歳から39歳の人口が減れば、単純に一人の女性が産む子どもの数が、例えば一人だったとしても、全体としては減っていく状況になる。

本市の合計特殊出生率の目標値に対する考え方としては、全国的に子どもの数が減少傾向であり、先般発表された子どもの人数につきましても過去最低ということもありますので、減少傾向である状況は十分認識しておりますが、2060年に人口38万人の維持を考えた場合、この数値を達成しなければ難しいため、短期の目標としてこの数値を置いている。

(委員)

別添1のスライド16ページの若者から選ばれるまちの基本目標の設定に関しまして2点ほど意見させてもらえればと思う。

1点は、20歳から39歳の人口ということで設定されているが、大学の進学等については卒業後の転出による影響が大きいと思う。

逆に大学の魅力向上をやっていけば、大学進学で高松に入

ってくることも十分に考えられるので、若者として少なくとも18歳の人口はおさえておいた方がいいと考えている。

また、生産年齢人口が15歳以上というようなことを考えれば、15歳からという考え方もあると思う。

それから、目標値についても8万人という形で置いているが、一定の割合の若者を確保することで地域活力の向上が図られるという観点からすれば、若者の割合何%というようなかたちで目標値を設定する方法もあると思う。

また、人数だと人口増減等の関係が多いのか、少ないのか、直感的にわかりにくいところもあり、人口規模が異なる他の地域でうまく若者を取り込んで活性化しているようなところと比べる場合にも割合の方が比較しやすいと思っており、割合での設定がいいと思う。

(事務局)

20歳からとお示めしているのが、本市で策定している移住・定住促進方策で、20歳以上からを移住ターゲットに設定しており、その整合性をとるため、20歳以上としていたが、御指摘のとおり、大学進学を契機とした転出というところが一つの課題ともなっている。

また、全体の人口の中で若者層が、どれだけいるのかということが大事になってくるので、先ほどの2点について再度、事務局で検討したい。

(委員)

総合戦略なので全政策的に網羅しながら、中・長期的なビジョンを作っていくに従って、普通の人々が陥る、つまらない普通のプランになっていくという風に感じる。

もっと、高松らしくエッジのきいたビジョンとか、キーワードとかを打ち出して、「こういうまちが好きな人が帰ってらっしゃい」、「ここで成長しましょう」、「こんな産業を

つくりましょう」というくらい何か書かなければ普通の平均点の国に出す資料ができましたというものになり、一つも市民にささらないと思う。

例えば、神山町では、「自分たちはこんな人達と一緒に仕事をしたい」とか、「こんな子たちに住んでほしい」ということで、いろんなブレイクスルーをして、今度、私立高等専門学校を創るが、このように他のまちでは出てこないような目標値があるとか、そんな項目を出すくらいやらなければ、他市と比べても同じような項目が出てくるのでは、違いがないようなことになりかねないと思う。

せっかく世界から行ってみたいまちと言われているのだから、そこにエッジを利かせるとか、もっとひねった項目が出てきてもいいと思う。

例えば、ペットと一緒に暮らしやすい日本一のまちみたいな話で、好きなペットと暮らしやすい指数など、大胆なことも入れていってもよいと思う。

(事務局)

今回いろいろな角度から取りまとめをしております、ここ数年の創造都市推進局の取組、総合戦略も第2期に入っていきますので、概ね高松の方向性という共通認識はある程度、皆さんつかめていると感じている。

この懇談会の御意見をできる限り反映することが非常に大事だと思う。

(会長)

別添1のスライド14ページが高松らしさを出した図であり、今までの戦略で書いていたものを立体化させ、特に高松市は「地域共生社会の推進」、「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」、「スマートシティの推進」の3つを狙いにして特色として打ち出そうとしているのが特徴だろ

うと思う。

20年後、30年後を見たときに、高松の特性が出てくると思う。

(委員)

2点あり、別添1のスライド17ページの公共交通機関の利用率ですけれど、確かに持続可能なまちをつくるという指標としては有効だと思いますが、先ほど他の委員から意見があったように、公共交通機関の利用率を上げるのではなく、他の指標として、例えば、電車、バスだけでなくウーバーとか新しい乗り物が出てきている。

そういうものをどのように利用するか、誘致するかを指標にすべきと思います。確かに難しいのは分かっているので、次の機会で考えてもらいたい。

それと2点目が、別添1のスライド20ページの学校教育環境の整備で、政府がギガスクールとか、一人一台パソコンというような状況になっている。

これについて今、高松市がどういう風に考え、どのような施策を考えているのか。

(事務局)

先ほどの公共交通の利用率は、現在、新駅の整備を進めている。

そのような中で、新駅を中心としたバスの再編なども視野に含めながら公共交通を利用したまちづくりを進めて行こうとしている。

このようなまちづくりを進めて行く中で、ゴールドIruCa、乗継割引といったものを同時に展開していく。

それから、ICTなども活用したMaaSなども合わせた施策として総合的に展開していきながら公共交通機関の利用率を上げていきたい。

御提言のあった指標の設定については、今後の検討課題にさせていただきます。

それから、学校教育の環境整備については、現在、各学校に小学校5年生から中学校3年生までの普通教室に電子黒板を配置しているところであり、ICTを活用した学校教育を進めていく。

国の方でパソコンの配置について言われており、これらについては、現在、教育委員会で検討を進めている。

(副会長)

今後、人口減少社会において高齢者が増えてくる中で、高齢者が運転できなくなることや事故を起こしそうになることが問題で、公共交通や新しい公共交通手段を考えることが必要である。

コミュニティの問題でも自治会の加入率が減っており、高齢者が活動しているケースが多いが、そのような年齢構成ではなく若い世代も一緒に活動することが必要である。

(委員)

スマートシティの重要課題といった形で新たな乗り物、運輸形態というものを優先的に取り組み、そこから出たものをコンパクトシティ構想の中に盛り込まれていく流れができると思うので検討していただければと思う。

それから、文化芸術をキーワードとして、いろんなイベントが、かなり好評を博しており、良いと思っているが、高松市美術館で有名な方の特別展示開催期間中に、その人の講演会やセミナーなどを高校生たちに聞かせてあげる場所をつくっていくと良いと思う。

また、美術大学とか音楽大学などのサテライトオフィスみたいなものを誘致できたら面白いと思う。

そうすることによって、市民全体の芸術文化に対する関心

度が醸成されてくることになる。

高松市に来ている観光の大きな目的の一つが芸術だろうと思うので、受入側が芸術を分かっていないのでは、長続きしないので、草の根運動的なこともしっかりやっていくことが必要だと思う。

(委員)

第2期たかまつ創生総合戦略(素案)ですが、KPIの設定がピンとこないものがある。

1つ目は、第2期たかまつ創生総合戦略(素案)の117ページ「公園・緑地の整備」というのがある。

市民一人当たり公園の面積を指標として、9.2㎡から9.28㎡に上げているが、それよりもまだない所にどれだけ公園を作れたかところが大事になるので、KPIもそれを測れる方が本当は良いと思う。

また、75ページの「地域における子育て支援」のKPIが「子育て支援拠点施設の設置割合」とあり、現状すでに100%になっている。

その目標値を、このまま現状維持するというKPIを用いるよりは、もう一つ違う角度で新たな目標設定してクリアすることに意味があると思う。

KPIについては、本当にこれが課題を解決するために役に立つのかという視点で見直ししていただきたい。

(委員)

まず一つが公共交通機関ですが、私も皆さんの話を聞いて同感である。

職場に高齢者の方がボランティアに来るが、運転免許証の返納を機に辞めますという方が多くいる。

職場は郊外にあり、高松空港から職場までの公共交通機関がない。

以前は、ことでんバスが走っていたが、先ほど言われたように運転手さんが不足しているということで、路線が廃止されたこともあり、地域とか、子どものために何かしたいが、交通の問題により、活動ができなくなっている人が職場の中にいる。

私自身が子どもと社会見学として、バスに乗った際、バス路線図が見にくかった。

運転免許証を返納した高齢者に公共交通機関の利用を促すなら、路線バスの図をもう少し分かりやすいものにすれば、利用が増えると感じる。

それと、先ほどK P Iのところで公園の話がありましたが、私自身、小学校に入学する時、高松に引っ越して来たが、母がよく高松の公園には日影がないと言っていた。

今は温暖化で気温も高くなっており、子どもを日影のない公園に遊ばせに連れて行くというのは、親として考えるところもある。

今後、日陰を意識して公園を整備すると利用者が増えると思う。

(委員)

日本への飛行機の便がよく、アジアから多くの観光客が訪れている。

海外に行ったら、キャッシュレス化が進んでいる国がたくさんある中で、日本は遅れている。

特に高松は現金払いが主流となっているので、高齢者など多くの人にキャッシュレス決済を活用できるようになれば良いと思う。

海外に日本からも行きやすくなってパスポートを更新した人がたくさんいると聞いている。

世界から見て日本はすごく行きたい国であり、日本の中で高松と言え、来たことがある人は、すごく良いところだ

し、芸術も全て良いと言う。

もっと高松に訪れる人や住む人が増えたら、高松の良さをもっと発信できると思う。

(委員)

3年前から香川のお魚PR大使として、いろいろなイベントに出させていただいており、高松市の卸売市場のイベントにも毎年参加している。

以前は、イベントで料理教室もやっていたので、また、やって欲しいと思う。

(オブザーバー)

県は、IT関係の人材をどうやって育成していくか、或いは起業により若者が帰って来ないかというものを模索しているところで、高松市と連携してやっていければと思う。

県の戦略を作るときに、同じようにアンケートを行ったが、「公共交通機関」に対する期待と不満の両方だと思うが、5年前に取ったアンケートより10ポイント以上高い結果が出ている。

また、学生に香川県の魅力を聞くと、「自然がいいところ」、「災害が少ないところ」を挙げ、逆に悪いところを聞くと、学生の約8割が「公共交通機関の便が悪い」を挙げており、今後、公共交通機関をどうしていくのか、という施策は大事であると思う。

そうした中で、ことでんがあり、JRもありますが、今後、MaaSとか、自動運転などにどうやって取り組んでいくのか高松市にも期待したいと思う。

高松市の戦略全体の感想として、高松の中心部、旧市内をすごくイメージする。

一方で、南部地域の人口減少をどのように防いでいくのか、そこは人口が減少してもしようがないのか、どのように

コミュニティを維持していくのかという感想を持った。

(委員)

高松市のアンケートでは、「とても子育てしやすいまち」が20%くらいで、「まあまあ子育てしやすいまち」が6割くらいある。

「第2期高松市子ども・子育て支援推進計画(案)」のパブリックコメントも行っているので、ちょうど今日、子育て広場の中で16組くらいのお母さんに「第2期高松市子ども・子育て支援推進計画(案)」の概要を少しお話する機会があった。

その際、「子育てしやすいと思うか」と問うと、皆さん手が上がった。

また、「どこが不便か」と問うと、公共交通のほか、思ってもみなかったことで、歩きタバコがすごく多いということを言われた。

転勤の方が多かったが、大阪でも、東京でも喫煙室は隔離されたところであるが、高松に来ると、道に灰皿コーナーがあって、その間を歩きタバコする人が多く、何とか対応してほしいというのが多かったのと、歩道がガタガタするので自転車の前カゴに子どもを乗せていると、子どもがピョコピョコ飛び上がってとても危険だから何とかして欲しいという意見があった。

この計画の中でもユニバーサルデザインの普及ということがあるので、お伝えした。

(副会長)

環境問題において、ごみの減量、地球温暖化、食品ロス、買い物袋などが今後、大きな課題になることを提言する。

(会長)

バスの路線がわかりにくいとの意見があったが、インターネットで調べると、時刻表が表示される。

インターネットを使っていくとすごく便利になってくるのが現実に見えてきている。

「たかまつ人口ビジョン 令和元年度改訂版（仮称）」（素案）及び「第2期たかまつ創生総合戦略（仮称）」（素案）の2点については、よろしいか、御意見を取り入れるところは、取り入れてくれるということですので、そのような形でやっていきたいと思う。

特に戦略を作っていくことは難しく、特徴を出していくことは難しいことだろうと思うが、前々から作っていたものを積み重ねていき、それが市民のためになるような新戦略として高松市も頑張っていたきたい。

議題1、2は終了とする。

それでは、議題3のその他ですが、今後の予定について事務局から願する。

(3) その他について

(事務局)

今年度の懇談会は今回で終了する。

懇談会でいただいた様々な意見は、「たかまつ人口ビジョン」の改訂、「第2期たかまつ創生総合戦略」の策定の検討にあたり参考とさせていただきたい。

最終的に取りまとめました各計画は、資料の送付等により委員の皆様にお知らせする。

(会長)

事務局から説明があったが、この件についてよろしいか。

特に無いようなので、本日の会議は、これをもって終わりにする。

市は、「たかまつ人口ビジョン」、「第2期たかまつ創生総合戦略」の策定により、事業の推進を図っていただくようお願いする。

皆さんも今年度をもって懇談会委員の任期が終わるが、これからは、それぞれの立場で地方創生に御協力いただければありがたい。

人口減少の中で、観光、インバウンドなどで高松市は恵まれていると思う。

世界から注目されることはなかなか無いことであり、データセンターなどを造る企業なども出てきており、そういう意味では、今、高松が注目されている。

その中で最大限のことをみんなのネットワークを使ってやっていくことが大事だと思うので、このような機会も含めて、これからまた、よろしく願います。

それではこれをもって会議を終了したいと思う。

(閉会)